

平成28年度 第3回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

平成28年12月6日(火) 10時15分～12時15分

2 開催場所

長野県森林組合連合会中信木材センター もくりゅう館会議室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・ 住宅の着工戸数は伸びているが、中長期的に見るとガクッと落ちる可能性がある。アパート等についても木質化をするような政策をお願いしたい。
- ・ 調整の必要はないが、素材生産量については落ち込んでいる気がする。原木在庫量も減ってきている。丸太の価格は2月ぐらいまでは前年比より高値で推移するのではないかと。10、11月は原木の入荷量が製品に対して足りなかった。12月になっても増える気配はない。
- ・ 住宅着工戸数は伸びて安価価格帯の住宅が多く、国産材の利用につながっていない。木材利用ポイント復活等の政策は必要である。
- ・ 補助金がないと採算がとれない事業者が多い現状で、それにより出材量に影響が出る。長期的に見れば補助金に頼らず山が主体的に出材するように誘導していくことが必要。
- ・ 山に補助金をつけるより消費者に補助金をつけ、山に返ってくる仕組みが必要。そうしないといずれ生産量が確保できなくなる。
- ・ 今後、相当量の大径材が出材されると予想されるが、現在、良材以外は扱いにくいことから安価で取引されているのが現状である。今後どのように有利販売に結びつけてくかが課題になっている。
- ・ カラマツの大径材も増えてきているが、乾燥が難しい。5、6mに採材してもらえれば梁桁で需要がある。プロセッサ等々の機械化により全て4mで採材してしまうのが現状で、良いものを長尺材等に採材すれば単価は上がる。